

環境総合計画議論にみる 大阪府環境行政の現状

2010年1月31日：公害・環境デー

おおさか市民ネットワーク

藤永のぶよ

ライトアップ御堂筋



議論のなかみ①

基本となる視点

1) 2002年、計画策定から現在までの到達
・大気汚染・・2008年浮遊粒子状物質と二酸化窒素の

環境基準を全測定局で達成した。

・温暖化防止対策・・計画書や報告書の義務化・エコ

燃料など先駆的取り組みがすすんだ。

留意する点

- ①持続可能性・・・・人の活動に伴い発生する環境負荷
- ②地域発・・・・環境のブランド化
- ③府民が主役・・・・突然「府民とともに・・・」

議論のなかみ②

4つの基本方向

- ①低炭素・・・温暖化防止ではなく「低炭素」
当然削減目標は議論されず、別の場で。
「低炭素型産業」・・・新エネ・省エネ
「低炭素型都市構造」・・・公共交通機関を軸に
- ②循環・・・廃棄物の発生抑制・循環利用
- ③健康・魅力
- ④生物の多様性
上記を、
地域主権・広域連携、環境ビジネス、費用対効果の視点
ですすめていく。

豊かな持続可能都市・大阪

議論は進行形

みんなで意見をあげましょう！

府内企業へのアンケートでは(回答213社)

①廃棄物・省エネ・騒音振動悪臭など取組が多く。

製造業・建設業の60%、

②環境保全の取り組みは、業績と比例して高くなる。

③直接的支援策が有効

④環境ビジネスでは、技術開発・融資・税制面の優遇

⑤情報提供を求めている。

今なお、意見募集中。みんなで意見をあげましょう！